

広告

宇部興産中央病院医療最前線

— シリーズ患者さんに寄り添う専門医療 ⑰ —

不整脈について

動悸 / 眼前暗黒感・失神

↳ 放置してもいい場合から
命を奪う場合まで



院長
清水 昭彦

- 専門分野** ●循環器疾患 ●不整脈
- 資格**
- Fellow of American College of Cardiology
 - Member of Heart Rhythm Society
 - 植込み型除細動器/ペースメーカーによる心不全治療 研修証
 - 日本不整脈心電学会専門医 理事
 - 日本循環器学会 専門医 評議員 ●日本内科学会認定医
- 学会**
- Heart Rhythm Society
 - American College of Cardiology ●日本不整脈心電学会
 - 日本心臓病学会 ●日本循環器学会 ●日本内科学会

人は時に「ドキン」と感じたり「脈が飛ぶ感じ」「がしたり」「ドキドキ」と自分の心臓の鼓動を自覚したりすることがあります。これを般に動悸と言います。また、安静時や立ち上がった時に急に目の前が暗くなる眼前暗黒感や、ひどい時には完全に気を失って意識がなくなり失神を経験した方も居られるかもしれません。これらの症状は時に命を奪うこともあるので今症状がないからと放置してはいけません。

動悸の原因の多くは不整脈です。人の心臓は洞結節(ペースメーカー細胞)から興奮が始まります。2分間に心臓が収縮する回数を心拍数と呼び正常の心拍数は60〜100拍/分です。心拍数が60拍/分未満になると徐脈、101拍/分以上になると頻脈と呼びます。予定の収縮前に心臓興奮が起こると期外収縮と診断します。これらの異常を総称して「不整脈」と呼びます。

徐脈の場合には、症状がなければ特に何もしなくても問題ないことがほとんどですが、症状がある場合にはペースメーカーの植込みを行えば症状は消失します。期外収縮の場合にも症状がなければ、放置しておいても問題ありません。症状がある場合には、症状に対してお薬(抗不整脈薬)を使用します。心臓にもともと病気がある場合には、この期外収縮が頻脈の原因となることがあります。頻脈の場合には、症状がなくても基本的には何らかの治療が必要です。特に、心拍数が150拍/分以上となると、動悸が強くて日常生活を

送れなくなりますし、心臓のポンプ機能が低下して心不全状態にもなり、命を奪う場合もあります。薬や電気ショックで正常の脈に戻します。発作予防には、異常な心筋の一部を焼灼するカテーテルアブレーションを行います。

眼前暗黒感あるいは失神を起こす場合の原因としては、心臓による不整脈あるいは脳自体あるいは脳血管障害を考えなくてはいけません。心臓が原因の場合で、徐脈が原因で有ればペースメーカーが有効です。頻脈による場合には、薬やカテーテルアブレーションあるいは突然死の可能性がある場合には自動的不整脈を感じして電気ショック等を行う植込み型除細動器(ICD)による治療を行います。いずれの場合も正確な原因の探求が重要です。宇部興産中央病院では、これらの原因精査に必要な最新の長時間心電図記録装置や検査機器、脳および脳血管に対しての最新MRI・CT装置を備えています。また、これらの病気を専門としている循環器専門医及び脳外科、神経内科専門医師が常駐していますので、動悸や眼前暗黒感・失神があつて不安な方は是非当院外来を受診してください。



宇部興産中央病院は**地域医療支援病院**です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地
地域連携室 ☎0836-51-9421